

## 舞姫は何のために書かれたのか

なぜこのテーマを選んだのかというと、「舞姫」読んで鴎外自身について調べてみて、なぜ「舞姫」を書いたのか、もしくは誰かのために書いているのかと気になったからだ。私は鴎外は明治時代を批判するため、また自分と恋人のために書いたのではないかと考えた。それには二つの理由がある。

まず時代背景。鴎外が「舞姫」を書いたのは明治時代のことである。この時代は憲法が発布されたり、様々な改革が起こるなどして、社会が大きく変動した。その中で、自分の能力によって上の階級に上がることが可能になった。そのためには、知識・学問が必要であり、それを身につけ身を立てること（立身出世）は人間として価値ある行為だとされていた。「滅私奉公」から「立身出世」へ変わったのだ。

ここで「舞姫」について考えてみる。主人公の豊太郎は秀才で、ドイツ留学にも行っている。これはまさに「立身出世」のために行動していると考えられる。しかし実際のところ、自分の思うように行動できず、自由な恋愛もできていない。それは大臣の言葉に「語学のみにて世の用には足りなん」とあるように、結局豊太郎は国で働くことを求められ、「その気色いなむべくもあらず」から分かるように、それに反抗することは難しく、自分の意思を貫くことができなかった。従わなければ、本国も名誉も失ってしまうからだ。

以上より、私は「立身出世」をしようとしても、「滅私奉公」は完全に消えていなかったことを伝えたかったのだと考えた。鴎外は、世の中にこの物語が受け入れられることで、いまだに「滅私奉公」が残っている明治時代を批判したのだと思う。

二つ目に、鴎外自身の過去。鴎外と豊太郎には共通する部分が多い。まず名前、鴎外の本名は林太郎である。そしてドイツ留学もしている。また、幼少の頃から厳しい家庭教育を受けてきた。そして成績も優秀であった。鴎外は留学中エリーゼという人と恋に落ちたが振り切って帰国した、といった多くの共通点がある。しかし、エリーゼは日本までやってきて、一ヵ月後鴎外の一族に帰国させられている。そして翌年、鴎外は登志子という人と結婚するが、一年で離婚してしまう。

私は鴎外がまだエリーゼのことを愛していたのだと考えた。それは鴎外が離婚する年に「舞姫」を書いているからである。このことから、鴎外にはエリーゼへの思いが強く残っていて自分の思いを自分に似た主人公の小説で著し、登志子と離婚してエリーゼと結婚しようとしたのではないかと考えた。

この二点から、鴎外は明治時代を批判するため、そしてエリーゼへの強い愛を表すために「舞姫」を書いたと考える。

このテーマにあたり、国語便覧 p 177 - 179、教科書 p 301、鷗外についてのHP  
を参考にした。